

■ C-ENGINEの中長期研究インターンシップについて[企業版]

C-ENGINEの研究インターンシップは、大学院で研究に従事する学生に、企業の研究現場での企業研究者と協働し、新たな課題解決を探る研究を体験する機会となる「社会と連携した大学院教育プログラム」であると同時に、ご参画いただく企業様にとっても、オープンイノベーションのひとつの手法としてご活用いただくものです。

✓学生・企業がwin-winのインターンシップ

学生のWIN

大学院生にとって、C-ENGINEの研究インターンシップの経験は、下記の点においてその効果を期待するものです。

- ①企業内実践を経験することで、大学での研究意義をより明確にする
- ②研究者としての能力向上
(トランスファラブルスキル、研究シーズのマーケティング能力など)
- ③研究者としてのキャリア適性の確認
- ④中長期研究インターンシップだからこそ深まる、企業で研究職に従事することへの理解

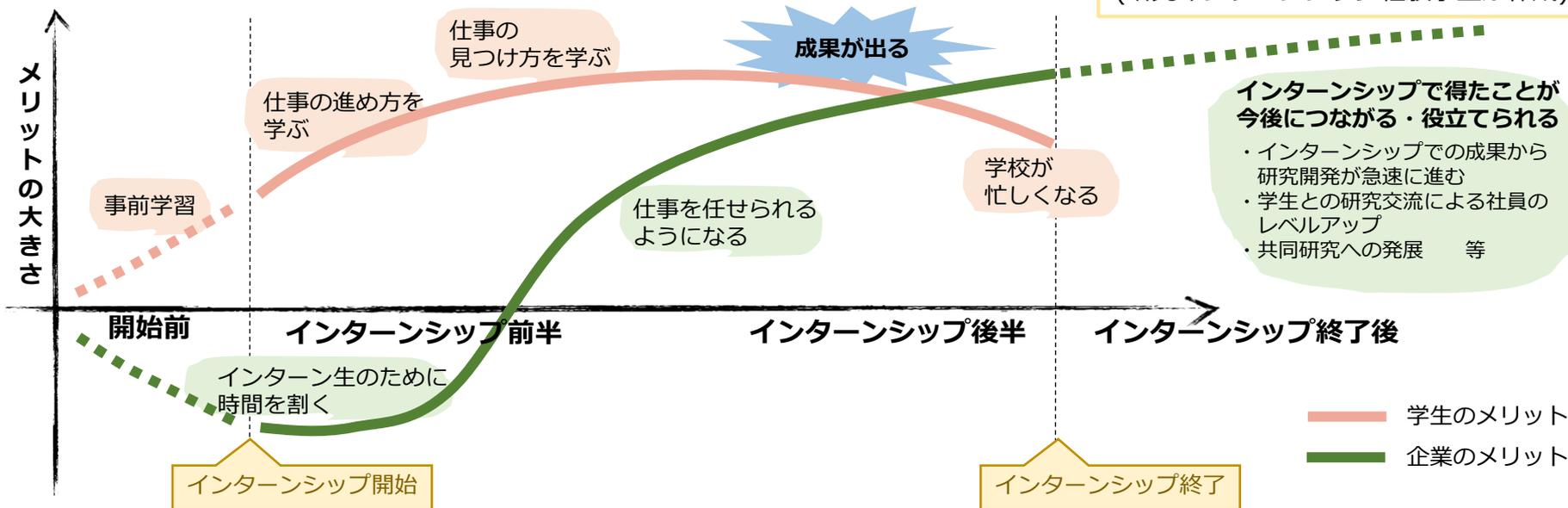
企業のWIN

企業にとっては、研究インターンシップを通しておもに下記の点が期待ができます。

- ①学生の専門（特に基礎学問や専門外の分野）に触れ、新たな知見や発想を得る
(本流研究の加速、またはリソースを確保できない新規テーマの検討など)
- ②学生の能力・スキルを、企画・開発に活かす
(既存製品の評価・改善や、実験データの理論的裏付けのための研究など)
- ③インターンシップ受入をきっかけとした産学間交流
(インターンシップ生本人、または所属する研究室ぐるみの関係を築く機会)

是非積極的なご活用をお願いいたします。

✓研究インターンシップにおける学生・企業の、win-win関係の推移



研究インターンシップの一般的流れと 押さえておきたいポイント[企業版]



✓ IDMのご活用(テーマ掲載)・各大学で開催される交流会への参加をお願いいたします

- ・IDMシステムを利用することで、貴社のニーズを会員大学学生に発信できるとともに、登録学生の情報を閲覧することができます。また学生は、掲載されたテーマを参考に、「企業にどのように貢献できるか」という観点から応募を検討することから、可能な限り具体的にテーマを設定されることを推奨いたします。
- ・IDM上にテーマを掲載がない企業にも、大学コーディネーターを介して学生へのアプローチは可能です。
- ・システム上では、学生向けに200字程度のメッセージを随時掲載することもできます。
- ・交流会は、多くの学生と直接意見交換ができる機会です。交流会をきっかけにマッチングが進む事例もございますため、積極的なご参加をお願いいたします。

✓ 学生応募後、受入検討のポイントについて

- ・学生のインターンシップ応募には、①IDM上での応募 ②大学コーディネーターによるオフラインでの応募 の二通りの方法があります。協議会では②を推奨しておりますが、大学によっては①の方法を基本とされる場合があります。
- ・応募学生のエントリーシート(履歴書、研究概要、志望動機)の提出を、大学コーディネーターにお願いしてください。それとともに、以下の観点から受入可能性をご検討いただき、**少しでも可能性がある場合には、三者面談の実施をお願いいたします。**
- ①学生の研究分野への関心の有無 (未着手で優先順位は高くないが、チャンスがあればやってみたいテーマ)
- ②学生の能力を活かせる領域の有無 (ex. すでに開発が進んでおり、更に加速できそうなテーマ、製品化はできているが、工程の一部の科学的裏付けが不十分なテーマ、企画段階で、試作に学生の専門分野のアイデアが活かせるようなテーマ、学生の専門分野の知見・手技が開発に不可欠なテーマ)
- ③学生が所属する研究室との関係開拓・強化への関心の有無

✓ 三者面談では、該当学生と一緒に研究してみたいテーマのイメージ合わせを試みてください

受入の可能性がある場合には、大学コーディネーター、学生と、受入部門担当で直接面談または電話会議等の実施をお願いいたします。場合によっては、学生の指導教員がテーマ設定への関与を希望されることがあります。
三者面談の結果を受け、最終的な受け入れのご判断をお願いします。

- ・学生のメンター・直接指導者をどなたにご担当いただくか 実施時期・期間とあわせて、三者面談時に
- ・学生の待遇(宿舎、交通費等の支給の有無)、保険等の確認 ←双方で合意されることを推奨します。

※※受け入れ決定後、大学・企業間での契約手続きが必要(大学コーディネーターや支援部局とのやりとりをお願いします)なため、すぐにはインターンシップを開始できません(最低2週間程度は必要)※※

✓ 事前準備期間に、学生が準備すべきことがあれば、企業側からのご説明をお願いします

- ・インターンシップ開始時に、ガイダンス・トレーニングに占める時間を最低限にし、定めたインターンシップテーマにできる限り多くの時間を確保するため、この期間を有効に活用されることを推奨しております。
- ・事前準備学習内容について、企業様の方から学生へ通知してください。
- ・インターンシップ開始前に事前打ち合わせ(ガイダンス)を実施されることを推奨します。

✓ 安全教育などオリエンテーション後、実験計画に沿って日次でPDCAを回すのが一般的です

- ◆**インターンシップ前半**：安全教育(予測と対処)、計画策定(学生の背景知識の確認)、導入教育(使用機器や実験手順)社内他部署、工場などの見学など(通常1~2週間)
- ◆**インターンシップ後半**：学生の自立的な研究遂行へのサポートをお願いいたします。①1日の実験結果報告・議論 ②翌日の実験計画と危険予測に関するレポート 等のご確認・ご指導をお願いいたします。

※※学生が定期的に進捗報告を大学コーディネーター・指導教員に提出することがあります。その際は報告所のご確認やコメント記載について、可能な範囲でご協力をいただけましたら幸いです。

- ◆**インターンシップ終了時に最終報告会開催**(可能な場合、指導教員、コーディネーター、協議会事務局も参加)

※※インターンシップ後は、「評価書」を、大学コーディネーターまでご提出いただきますようお願いいたします。